

明治維新时期における漢字翻訳語の 歴史的・言語的構造に関する多角的研究

国際言語文化学部 国際日本文化学科

教授 朱 鳳

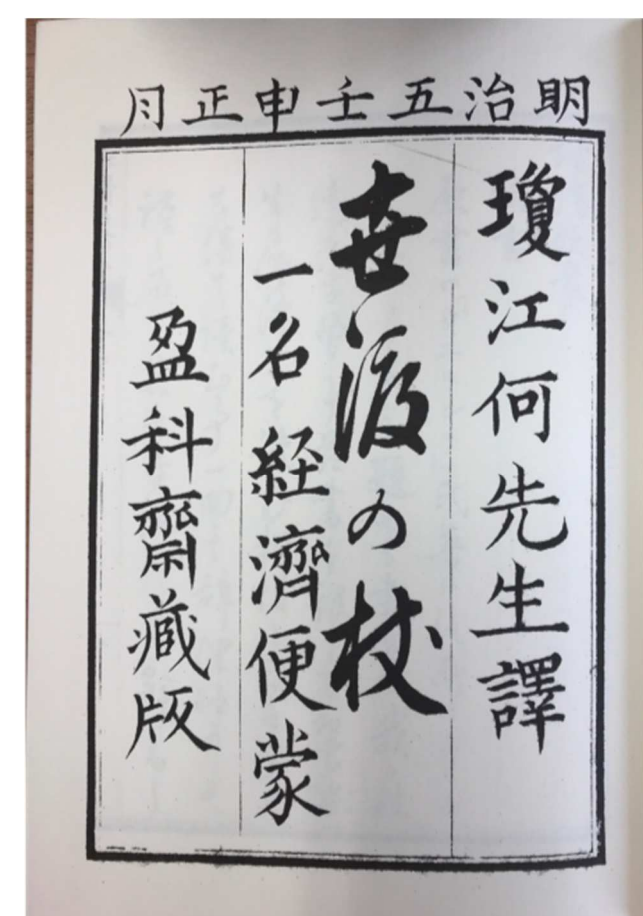
研究種目： 基盤研究(C)

研究期間： 2020年度～2024年度

研究分野： 史学一般関連

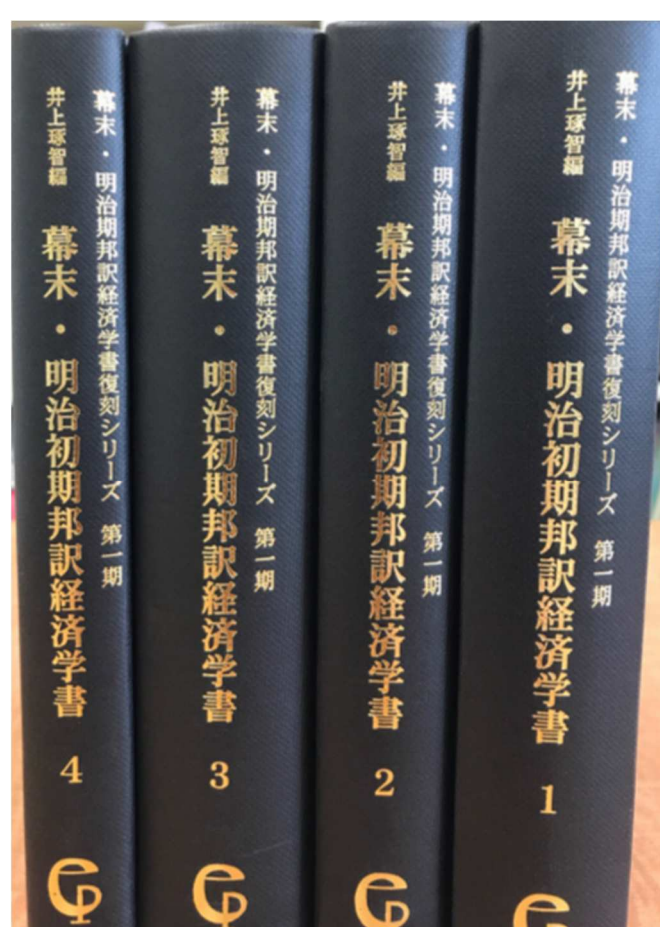


漢字翻訳語とは西書翻訳する際に漢字で創出した翻訳語である(漢字当て字を含まない)。本研究は明治初期に日本語に翻訳された西洋経済書に着目し、翻訳語として創造された漢字翻訳語を史学研究の通時的分析と語学研究的構造分析によって多角的に考察し、明治初期の翻訳語成立のプロセスと構造を明らかにすることを目的とする。



明治初期に読まれていた翻訳西書は主に中国から輸入された漢訳西書と日本人通訳者の翻訳によるものである。翻訳の担い手は洋学者、漢学者、唐通事、蘭通詞などその出自が様々であることから、本

研究は翻訳書そのもののみならず、翻訳者の歴史的な文化背景も分析対象にし、漢字翻訳語の生成および関する諸要因を学際的、深層的に考察し、最終的に明治初期における漢字翻訳語の歴史的と言語的構造を明らかにする。また、漢字翻訳語のデータ、翻訳史、東西文化交流史、言語学などの研究領域に対しても有意義な漢字翻訳語情報を提供し、資料的アプローチの研究の基盤を確立することができる。



主な著書

- 1)『モリソンの「華英・英華字典」と東西文化交流』白帝社 2009年
- 2)「漢訳聖書における音訳語の継承と創造」『東アジア言語接触の研究』関西大学出版部 2016年
- 3)「馬礼遜著作中の《拜客問答》『国際漢語一漢語教材史国際学術検討会論文集』中山大学 2018年
- 4)「薩默斯及其他欧州漢学者对“六書”的觀察—以19世紀的漢語學習教材為資料」『日中語彙研究』愛知大学 2019年
- 5)「《蘭英漢字典》抄本考証」『国際漢学』外語教学與研究出版社、北京 2019年

京都ノートルダム女子大学
研究・情報推進課

電話：075(706)3789

FAX：075(706)3793

電子メール：kenkyu@ml.notredame.ac.jp